

20th ANNIVERSARY

我ら歴史の糸を紡がむ

Develop Your New Stage

1995.5 No.97

Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 藤居 忠弘 編集責任者 小原 得雄 印刷所 東京印刷株式会社

次年度全役員決定！

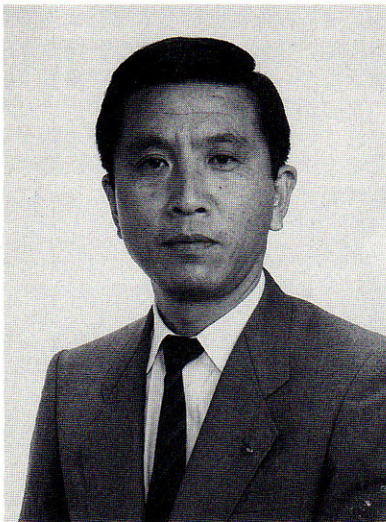
去る4月18日(火)、サンシャイン平安閣において臨時総会が開催され、次年度副会長、理事委員長、監事及び県出向役員が選出された。これで、次年度役員全員が決定されたことになる。

委員会名は未定であるが、例年より1ヶ月早く理事委員長を決定した。これは中長期ビジョン検討委員会での討議をふまえてそれに応えたもので、早い段階で次年度役員全員を決め次年度の事業計画を検討していくねらいがある。

5月例会では、中長期ビジョン検討委員会の分科会の発表会が行われる。新役員の21年目の西部青年中央会の舵とりに注目したい。

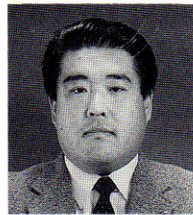
役員の方々は下記の通りである。

会長



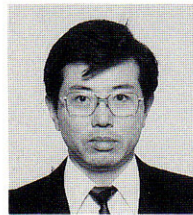
阿部 信行

直前会長

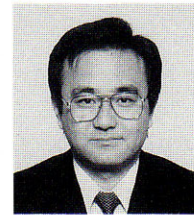


藤居 忠弘
副会長

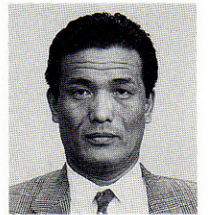
監事



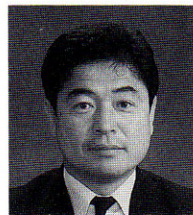
森永 修二



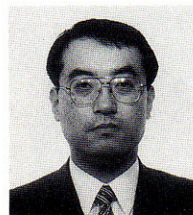
西山 裕二



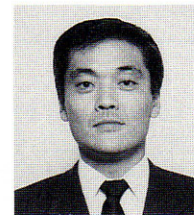
小原 得雄



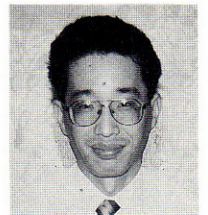
森尾 邦夫



秋田 導秀



松本 啓



足立 聡

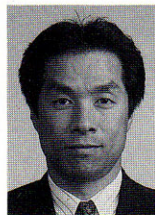
理事



梅林 広志



倉敷 裕史



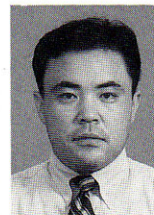
渡部 光典



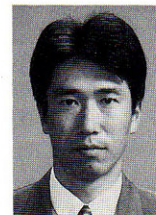
長谷川 義明



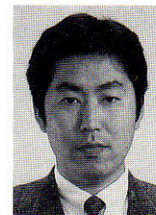
樋口 一夫



市位 清明



浜田 一哉



門脇 直己

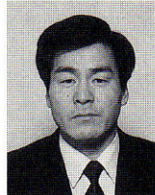
次年度
県出向役員
推薦決定

直前県会長



角田 茂樹

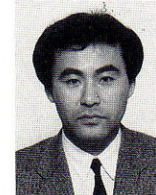
理事



松岡 晃



景川 恭次



山本 良文

監事



崎津 正



第16期卒
坂口 千加広氏

— 20周年に寄せて —

今回はOBの中から第16期ご卒業の
坂口OBにお願いしました。

昭和20年生まれ41才入会、少々とうが立った新入会員でしたが、河崎、岩坂両先輩に推薦いただいて入会しました。当時20年振りで米子に帰って来て間が無く、地元の様子が把握できていないところへ持って来て、大世帯の青年中央会に入り多勢の人の顔や名前、会の内容を覚えたりで、しばらくは大変でした。ただ出席だけはと、ひたすら参加していた気がします。

委員会活動として五年間のうち印象に残っているのは観光開発委員会と高齢化委員会です。観光開発は二年間所属しましたが、最初は米川委員長、二年目は皆生菊乃家の柴野委員長の下、米子を中心とした県西部の観光資源の利用、開発の勉強をしましたが、特に伊勢志摩観光ルートの視察はマイクロバスによる楽しい旅でした。もちろん研修視察です。又、当時バブル経済華やかな頃、大山を中心としたリゾート開発の話がいくつか持ちあがっていま

したが、いずれもまさに泡となって消えてしまいました。

今一つの高齢化委員会。卒業の年度でしたが、各委員会共通の統一研究テーマ「山陰広域中核都市圏の将来像」を設定しての活動でした。委員長の中で私が最高齢ということでこの委員会を担当した訳では決してありません。年度最後には各委員長が研究成果を公会堂で発表ということになり、原稿作りに頭を悩ませましたが、丁度四月には統一地方選もありまことに慌ただしい年度終盤でした。共通統一テーマでの研究は中央会初めての試みでしたが、このような言わば横の連携に対し、縦の繋がり即ち、単年度では対応し切れない課題に対し数年間継続して取り組むような試みも検討してみてもいいと思います。

ともあれ、無形の財産を与えて頂いた青年中央会に大いに感謝している一人です。

4 月 例 会 報 告

『環日本海時代の夢の超高速艇』の演題で鳥取大学工学部 応用数理工学科教授久保昇三氏を講師にお迎えし御講演いただいた。

まず、環日本海圏構想の経済圏をとらえて考えて見た場合、対岸貿易が不可欠であり、対岸の地下資源、広大な土地、生産コストが安い、海産物又、企業誘致等がその要因であるが、対岸までは800kmの距離にもかかわらず飛行機で4時間、乗り継ぎの関係で1日以上もかかる所もある。これは、防空識別圏と言う厄介なものがあり、かなり大回りのルートを飛行しなければならない為でほぼ直線で飛行するのは今のところかなり難しい状況らしい。しかし、海の場合は空に比較してかなり自由に通行ができるが、今の速度では一日ぐらいかかる。そこで必要になってくるのが超高速艇である。時速200～

400km/hの艇が考案され誕生して行き、しだいに性能も良くなってレジャー用の小型から100人以上乗れる大型超高速艇が外国で製造されており、久保教授の構想では、対岸まで2時間で行き来が出来る超高速艇の実現は技術的に可能であり、それによって日帰りもできるようになり、みじかな経済圏としてとらえる事ができる。又、国内においても環日本海圏の範囲がかなり広がり日本海側の発展に重要な意味を持つようになる。と言うお話を聞きながら、はて、表面効果翼艇(超高速艇)とはどんなものなのかと考えていると、ビデオで現在実際に製造され使用されている小型及び大型超高速艇が写し出された。それは、まるで水面すれすれを飛ぶ飛行機の様にも見たが、各地域が短時間でその新しい交通システムによってむすばれ、広域都市圏として機能できれば、新しい国土構想を形成していく乗り物と言えるのではないだろうかと思った。

委員会訪問

金融税務委員会

平成7年4月14日午後6時30分、米子国際ホテルで開かれた第10回金融税務委員会を訪問取材しました。

恒例の副会長挨拶、役員会報告の後の協議事項では運動会、中長期ビジョンの件の他に、打ち上げ旅行の件が話し合われていましたが、何とチャーター便による韓国齊州島への2泊3日の旅が計画されているとのことで、うらやましい限りでした(参加者を確認されたとき、取材者の立場を忘れて思わず挙手しそうになりました)。

そして、遅れて出席された会長の挨拶の後、その日のメインの講演が始まりました。講師は境港市の株式会社海産物のきむらやの木村隆之氏で、裸一貫から如何にして年商15億、味付けもずくでは全国25%以上のシェアを誇る現在の会社を作り上げたか、を話されました。沖縄県最北端の伊平屋島産の高品質のもずくを原料とし、徹底的な衛生管理を心掛けてきたのが成功の秘訣ではないかとのことでした。また、もずく加工作業で欠かせない長靴を殺菌、乾燥、保温させるユニークな靴箱を自社用に開発したところ、大好評で、外販に乗り出し(商品名ステックス)、そちらでも成功しているとのことでした。各委員とも木村氏のお話に魅了されたようで、質疑応答も活発で、なかなか中身のある充実した講演でした(ちなみに、おみやげに頂いた味付けもずくの味も秀逸でした)。

委員会全体の雰囲気は、終始なごやかで、岡空委員長中心にチームワークのよい委員会との印象を受けました。委員長のお話によると、これといった年間テーマはなく、これまで内外の講師を招いて金融税務という観点からの講演をしてもらってきたが、本

日はもっと広い視野でダイナミックな、経営に関する話を聞かせたいということで、この講演を企画したとのことでした。とにかく、大成功に終わった金融税務4月委員会でした。 M. O.

フレッシュ委員会

4月13日(木)、フレッシュ委員会を訪問させていただいた。藤居会長、小原副会長同席のもと、足立委員長以下12名の出席であった。新入会員に中央会活動を理解してもらう為の重要な委員会であるが由に、その気くばり、御苦労は大変なものがある。当日は宇佐見OBをおむかえして、中央会の思い出などを中心にお話しいただいた。

先輩の入会動機は「人との接点を求めて。手を重ねた時、うまい酒を飲める仲間をつくりたい。」との思いがつのった時、たまたま知り合った一先輩の紹介からだった由。

会を自己研鑽、企業とのつながりの場ととらえ、マジメに出席されたとの事。又、楽しい会であらねばならぬとの考えを強調された。遊び感覚があるから色々な事にチャレンジでき活性化も図れる。取組みがたかくなると面白くなるそうである。レクリエーションの思い出、講師探しの苦労談、会長時代のお話し等、サミー節にも熱がこもり、「もうこの辺で二次会へ行かないや。」との先輩の提案に一同ネオン街へと向った。夜もふけるのを忘れ、筆者も任務を忘れ、美女に囲まれ楽しい一刻を共有した。

宇佐見OBをはじめ足立委員長、委員会の皆様にはご協力いただき、厚く御礼申し上げます。ご活躍をお祈り致します。 H. T.

青経連懇談会開催

鳥取県西部青年経済団体連絡協議会の平成7年度第1回懇談会が、去る4月19日「美さご」において開催され、

(1) 合同講演会、(2) 親睦事業、(3) 年会費額について審議がなされ各々承認された。

特に6月3日と差し迫った合同講演会については野坂建設大臣を迎え、21世紀に向け鳥取県西部における地域作りのグランドデザインについて講演いただく事に決定した。

これは、中海圏域地方拠点都市構想実現に向けて大きな指

針となるものであり、青経連のみの講演会にとどまらず行政へも案内する事となった。これに伴い、各団体より選出された委員が集まり担当者会議を重ね、各々の負担を決める様になっている。

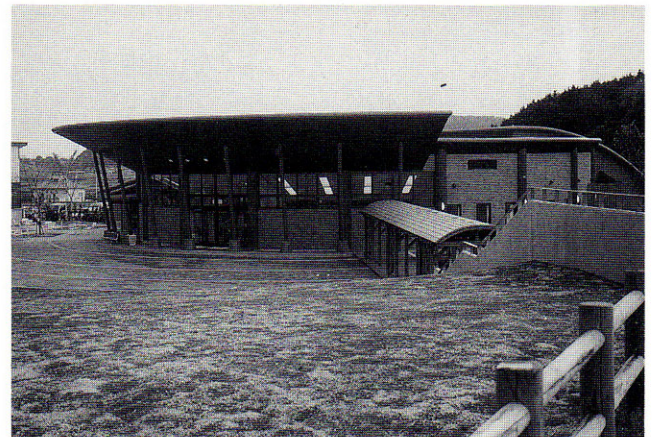
尚、本年度は我が西部青年中央会が、青経連の幹事団体となっており、秋には親睦事業としてボウリング大会が計画されている。

『伯耆古代の丘公園』『白鳳の里』オープン

去る4月22日、西伯郡淀江町福岡の上淀廃寺跡近くに『伯耆古代の丘公園』が完成し、県西部の新しい観光スポットとして注目を集めている。

伯耆古代の丘公園は約10haの敷地内に古墳群や資料館、体験学習等の出来る様々な施設が多数点在し、家族連れで半日から丸一日は十分楽しむことが出来る。一方、同時にオープンした物産館『白鳳の里』では、名水に因んだ豆腐作り・そば打ちの実演をはじめ、名水コーヒーやこだわりの会席料理を楽しむほか、特産品・土産物の販売などを行う。

ここで我々が特に注目したいのは、白鳳の里が第3セクターで運営されている点であり、その目的として、地元及



白鳳の里の全景

び周辺市町村の企業及び個人等とのタイアップによる、特産品の開発・支援、イベントの企画・開催や文化・観光面での全国各地との地域交流を挙げている。



株式会社 白鳳
企画営業 濱田美絵さん

ハードとしての伯耆古代の丘公園に対し、今後ソフト面でどのようにリンクしていくかが、情報発信基地『白鳳の里』にとって最も重要な鍵となるであろう。ともかく一度は足を運んでみたいスポットである。



さわやかさん こんにちは



(株)新日本観光センター
清水会員推薦

村尾 絵理 さん

昭和48年7月11日生 21才 O型

趣味：テニス、スキー

好きなタイプ：男らしくてなおかつ女性を大切にする人。

嫌いなタイプ：自分勝手な人、がんこな人。

好きな食べ物：カレーライス、お寿司。

お酒は：人並みにOK、梅酒大好き。

得意な料理：玉子焼き、かぼちゃの煮物。

結婚は：いい人が見つければ早くても構わない。

清水会員へ一言：仕事をする時は徹底して仕事を、遊ぶ時は徹底して遊ぶ、そんなケジメをちゃんと持っている所を尊敬しています。

清水会員から村尾さんへ一言：とにかく責任感が強く真面目な所がグーですね。これからも失敗を恐れず我が道を行って下さい。

妻の本音

「わたしの夫は少年」 小原 佳子

「いつまでたっても瞳（ひとみ）は少年」小原得雄という人を、一言で言い表わすと、こうなります。

単純な性格で、ウソがつかない。つい正直に本音をしゃべりすぎてしまう。自分の感情をかくすことが出来ない。いつまでたっても世渡り上手なおトナになれない人。

次つぎに新しい趣味（興味）を見つけて、熱中するさまは、まるで少年そのもの。

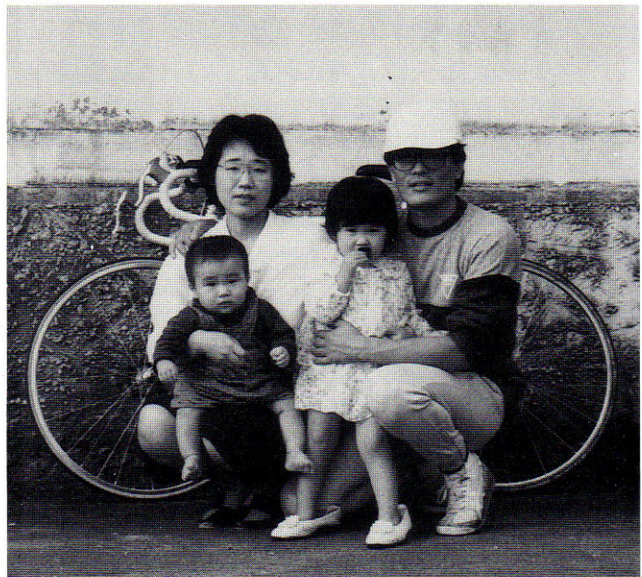
自転車、カメラ、ビデオ、アウトドア（キャンプ用品等）、そして中央会「二十周年事業」等、彼は次つぎと対象を変えて、エネルギーを燃やしてきました。

そして今、夫の興味は何でしょう？

それは「O真理教」です。O教のことなら、夫になんでもきいてね。今やO教の権威です。

中央会の皆さんへ

夫は、酔っ払うと話がぐどぐどなるので、相手する方は、大変でしょう。これにめげず、これからも付き合ってください。よろしくお願ひ致します。



聞いてごしない Part 8

「盗聴」

最近、盗聴が流行しているらしい。やたらテレビが第2弾、3弾と特別番組を放送する。すでに地方でも密かに流行っているかもしれない。盗聴は相手を特定し、盗聴者が何らかの意図をもって行うものだから、平穏な生活を営んでいる者にとっては全く別世界のことであり、何ら恐れることはない。

しかし一方、広く他人のプライバシーを知る手段として、傍受という簡便な盗聴方法があるということを知るべきである。これが問題だ。

最近のコードレス電話、携帯電話の普及には目覚ましいものがある。これが危険極まりない。どちらの電話もコードレスだから、文字どおり電波が空を飛んでいるわけで、どこかで会話が傍受されるであろうことは容易に察しがつく。そう思い、私も使いはじめの頃、多少緊張しながら喋っていたが、最近その便利さに慣れ、注意力が麻痺してしまっていた。ところがである。受信機なるものがあることを知った。簡単にディスカウントショップで買ってしまうのだ。車に取り付けるネズミ捕り発見用レーダーにその機能が組み込まれているものもあるというから驚く。これら受信機の性能たるや凄いもので、息づかいまでクリアに聞きとれるという。

便利さは、人の心に大きな隙を生じさせる。我々は便利さを獲得する代償に、知らず知らず大切な個人情報をも不特定多数に提供してしまっていたのだ。まさに「壁に耳あり、障子に目あり」の世界がここにある。あな恐ろしや！そうはいつでも確かに他人の秘密を知ることは快感なのだ。その快感は、独占した満足感に止まらず、他人に広めることにより更に倍加する。豊かさの中で、人の心は確実に病んでしまった。

今のところ傍受を防ぐには、デジタル電話にするしかないらしい。しかし、そのデジタル電話になっても新しい機能の受信機がキット開発されるに違いない。もうこうなったら暗号で喋るしかない。「あれ」とか「これ」とか「Mさん」「Oさん」といった指示代名詞、略号、偽名を駆使し、時には「こらあーお前！他人の話を勝手に聞くな！バカヤロー」と見えない敵に対する脅し文句を、会話の合間に巧みに取り入れることも忘れてはならない。会話にならない会話を心掛けるのだ。ともあれ、会員諸兄、「別口」との秘密に満ちた甘い会話など厳禁であることをくれぐれも肝に銘ずべきである。

(文・てなぐさみ)

5月例会案内

日時 5月15日(月) 18:30~
場所 平安閣
演題 「語ろう！これからの青年中央会」
中長期ビジョン検討委員会作成テーマ
による分科会発表会
担当 広報委員会(受付及び全体進行)
中長期ビジョン検討委員会
(分科会報告会)

※出席の有無を5月10日までに返信ハガキにてご回示下さい。

5月役員会報告

5月定例役員会が5月1日(火)、米子食品会館に於いて開催された。当日の主な議題は、次の通り。

- (1) 5月例会・6月例会開催の件
- (2) 運動会開催の件 5月21日(日)
- (3) 収支見込みの件
- (4) その他

※尚、詳細については各委員長までご照会下さい。

連絡事項

新会社設立のご案内

宮廻裕和氏
新(有)ライトスタッフ
事業内容 広告代理店
米子市三本松1丁目1番5号
TEL34-2450 FAX34-2304

編集後記

県議会選挙も無事終了し、会員諸兄のご尽力により松田一三OB・湯原俊二会員の両名が上位当選を果たされました。

西部地域活性化の為に活躍されることを期待すると共に、我青年中央会に対しても、今、何をすべきかご指導頂きたいと思ひます。